

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成29年1月26日(2017.1.26)

【公開番号】特開2014-161732(P2014-161732A)

【公開日】平成26年9月8日(2014.9.8)

【年通号数】公開・登録公報2014-048

【出願番号】特願2014-25570(P2014-25570)

【国際特許分類】

A 47 J 45/07 (2006.01)

【F I】

A 47 J 45/07 A

【手続補正書】

【提出日】平成28年12月8日(2016.12.8)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

側方壁を含む調理容器用の取り外し可能な把持装置であって、

内側支持上部アーム(3)および外側支持下部アーム(4)であって、把持位置において前記側方壁の内面および外面をそれぞれ押すように、協働するよう設計された内側支持上部アーム(3)および外側支持下部アーム(4)と、

ロック解除位置とロック位置との間で軸(6)の周りを回転する締付けアーム(5)であって、締付けアーム(5)が前記側方壁を押し、および、下部アーム(4)および上部アーム(3)の2つのうちの1つと協働して、前記アームのうちの少なくとも1つに前記側方壁を固定する締付けアーム(5)と、

開位置と閉位置の間で手動によりシフトされ、前記開位置から前記閉位置へ移動するときに締付けアーム(5)を回転させるように設計された移動機構(7および70)とを有し、

前記移動機構とは別の戻り防止機構(8)であって、前記締付けアーム(5)が前記ロック位置にあるときに、締付けアーム(5)の締付け方向と反対方向への回転をロックするように設計された戻り防止機構(8)を含む、

装置。

【請求項2】

戻り防止機構(8)をロック位置からロック解除位置へシフトするように手動で移動されるように設計されたロック解除部材(94aおよび94b)を含む、請求項1に記載の装置。

【請求項3】

戻り防止機構(8)は支持により作動する、請求項1または2に記載の装置。

【請求項4】

戻り防止機構(8)はフリーホイール装置を含む、請求項1から3のいずれか一項に記載の装置。

【請求項5】

戻り防止機構(8)は、締付けアーム(5)が前記ロック解除位置から前記ロック位置へ回転されるときに、締付けアーム(5)の締付け方向と反対方向への回転をロックするように設計される、請求項1から4のいずれか一項に記載の装置。

**【請求項 6】**

戻り防止機構(8)は、締付けアーム(5)の固定された回転軸(6)とリング(80)との間に転動要素(81)を備え、前記リング(80)は、締付けアーム(5)に装着されて締付けアーム(5)と共に回転し、リング(80)と回転軸(6)との間における転動要素(81)の挟み作用により、締付け方向と反対方向へのその回転がブロックされるように設計される、請求項1から5のいずれか一項に記載の装置。

**【請求項 7】**

転動要素(81)はケージ(820)に取り付けられ、前記ケージは、締付けアーム(5)がそのロック解除位置からそのロック位置へ回転されるときにケージ(820)を回転させるように設計された連結機構(83)により、締付けアーム(5)につながれる、請求項6に記載の装置。

**【請求項 8】**

前記締付けアームと前記ケージとの間の前記連結機構は、弾性機構(83)を含み、前記弾性機構(83)の作用下で、締付けアーム(5)がそのロック解除位置からそのロック位置へ回転されるときに、転動要素(81)がリング(80)との接触を保つ、請求項7に記載の装置。

**【請求項 9】**

ケージ(820)に装着されたフィンガ(823)と協働するように設計されたロック部品(9)を備え、締付けアーム(5)がそのロック解除位置からそのロック位置へ回転されるときに、やはり回転するフィンガ(823)は、前記ロック部品(9)が移動機構(7)を前記閉位置にロックするロック位置まで、前記ロック部品(9)を第1の方向へ並進移動させる、請求項7または8に記載の装置。

**【請求項 10】**

前記ロック部品(9)は開口を形成し、前記開口は、前記ロック部品がロック位置にあるときに前記移動機構(7)に装着されたフックヘッド(73)を受けるように位置決めされることを特徴とする請求項9に記載の装置。

**【請求項 11】**

前記ロック解除部材(94aおよび94b)は、前記ロック部品を第2の方向へ並進移動させることにより、前記フィンガを介して、前記ケージを回転させて前記転動要素を係合解除するように設計され、前記転動要素の前記係合解除により、前記締付けアームを解放して締付け方向と反対方向に回転させる、請求項9または10に記載の装置。

**【請求項 12】**

前記ロック部品(9)を前記第2の方向へ戻すように設計された第1の弾性戻り機構(93)を備え、前記ロック部品(9)の前記第2の方向への前記戻りにより前記フックヘッド(73)を解放することを特徴とする請求項11に記載の装置。

**【請求項 13】**

フックヘッド(73)の解放後に前記移動機構を前記開位置へ戻すように設計された第2の弾性戻り機構(74)を備えることを特徴とする請求項12に記載の装置。

**【請求項 14】**

前記転動要素はローラ(81)である、請求項6から13のいずれか一項に記載の装置。

**【請求項 15】**

前記転動要素は玉軸受である、請求項6から13のいずれか一項に記載の装置。

**【請求項 16】**

移動機構(7)はフィンガタペット(70)を備え、前記フィンガタペットを介して、前記移動機構(7)は締付けアーム(5)を前記締付け方向へ回転させるように設計される、請求項1から15のいずれか一項に記載の装置。

**【請求項 17】**

前記フィンガタペット(70)は弾性機構(72)を介して移動機構(7)に連結されることを特徴とする請求項16に記載の装置。

**【請求項 1 8】**

締付けアーム（5）は前記側方壁を前記内側支持上部アームに対して固定するように設計される、請求項1から17のいずれか一項に記載の装置。

**【請求項 1 9】**

請求項1から18のいずれか一項に記載の把持装置と、調理容器とを有するアレイ。